第一ライフ資産運用経済研究所
Daiichi Life Group

2026 年 11 月 13 日

インド・10 月インフレ率は前年比＋6.09%と目標レンジ超え（Asia Weekly）

～世界的な AI・半導体需要の旺盛さを反映して、台湾の 10 月輸出額は過去最高を更新～

経済調査部　主席エコノミスト　西濵　徹

（TEL：050-5474-7495）

（経済指標の振り返り）

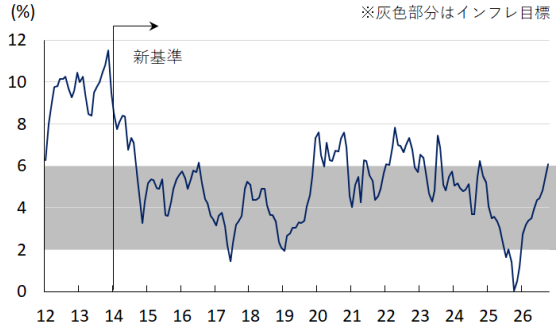
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
11/9（月）	（中国）10 月消費者物価（前年比）	＋0.7%	＋0.8%	＋0.9%
	10 月生産者物価（前年比）	＋5.7%	＋5.3%	＋5.0%
	（フィリピン）7-9 月実質 GDP（前年比）	＋2.1%	＋3.0%	＋2.4%
	（台湾）10 月輸出（前年比）	**＋58.9%**	**＋50.0%**	**＋60.9%**
	10 月輸入（前年比）	**＋75.1%**	**＋54.5%**	**＋51.7%**
11/10（火）	（中国）10 月輸出（前年比）	＋35.2%	＋33.5%	＋36.3%
	10 月輸入（前年比）	＋41.6%	＋32.0%	＋31.0%
	（マレーシア）9 月鉱工業生産（前年比）	**＋6.3%**	**＋5.8%**	**＋5.0%**
11/11（水）	**（韓国）10 月失業率（季調済）**	**2.5%**	**－－**	**2.6%**
11/12（木）	**（インド）10 月消費者物価（前年比）**	**＋6.09%**	**＋5.93%**	**＋5.54%**

（注）コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。**灰色で囲んでいる指標**は本レポートで解説を行っています。

[インド]～生活必需品の価格上昇、ルピー安や価格転嫁を背景にインフレ圧力が広がり、目標を上回る～

12 日に発表された 10 月の消費者物価は前年同月比＋6.09%となり、前月（同＋5.54%）から伸びが加速し、2024 年 10 月以来２年ぶりにＲＢＩ（インド準備銀行）が定める物価目標レンジ（４±２%）の上限を上回った。前月比は＋0.51%と前月（同＋0.69%）から上昇ペースこそ鈍化したものの、物価の上昇基調は続いている。原油価格の高止まりがエネルギー関連価格への上昇圧力となっているほか、生鮮品や穀物などの食料品価格も上昇するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比＋4.51%となり、前月（同＋4.33%）から伸びが加速して、３ヵ月連続で物価目標の中心値である４%を上回って推移している。前月比も＋0.30%と前月（同＋0.40%）に続いて上昇しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの増大に加え、金融市場でのルピー安の進行による輸入物価の上昇も重なり、幅広い財価格に上昇圧力が及んでいる。さらに、サービス価格についても上昇基調を強める動きが確認されており、企業によるコスト増加分の価格転嫁が広がるなか、インフレ圧力が一段と強まっている様子がうかがえる。

図１　IN　インフレ率の推移

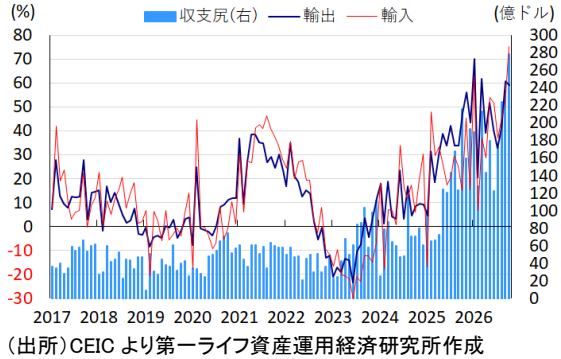


（出所）CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[台湾]～半導体関連をけん引役に 10 月輸出額は過去最高を更新、輸入額、貿易黒字幅も過去最大に～

９日に発表された 10 月の輸出額は前年同月比＋58.9%となり、前月（同＋60.9%）から伸びが鈍化した。前月比は＋10.9%と前月（同＋7.6%）から拡大ペースが加速しており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新した。財別では、世界的なＡＩ（人工知能）・半導体関連需要の旺盛さを反映して、主力輸出財である半導体などの電子部品や情報通信・映像関連製品の輸出が引き続き拡大している。一方、プラスチック関連や化学製品関連などの輸出は相対的に伸びが弱く、分野ごとにばらつきが生じている。国・地域別では、米国や欧州、日本など先進国向けが引き続き拡大基調で推移しているほか、中国本土やＡＳＥＡＮ（東南アジア諸国連合）向けも堅調な動きをみせており、幅広い地域で輸出の拡大が続いている。一方、輸入額は前年同月比＋75.1%となり、前月（同＋51.7%）から伸びが加速した。前月比も＋8.3%と前月（同＋7.9%）から拡大ペースが加速しており、単月ベースの輸入額も過去最高を更新した。半導体関連を中心とする輸出の堅調さを反映して、生産能力の増強に必要な設備をはじめとする機械製品関連の輸入が押し上げられるとともに、化学製品関連やプラスチック関連など素材・部材関連の輸入も堅調に推移しており、輸出拡大が輸入の増加を促す構図が続いている。その結果、貿易収支は＋278.75 億ドルと前月（＋236.30 億ドル）から黒字幅が拡大し、単月ベースで過去最大となった。

図２　TW　貿易動向の推移



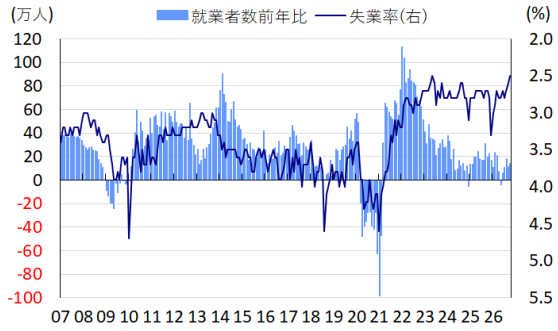
（出所）CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[韓国]～10 月失業率は小幅に改善するも、若年層を中心に雇用環境は厳しさを増す展開が続く～

11 日に発表された 10 月の失業率（季調済）は 2.5%となり、前月（2.6%）から 0.1pt 改善した。失業者数は前月比▲2.9 万人と前月に続いて３ヵ月連続で減少しており、中期的にも減少基調で推

移するなど調整の動きが続いている。年代別では、60 代以上の高齢層で増加する動きがみられるものの、20 代や 30 代、40 代での減少が全体を下押ししている。一方、就業者数は前月比▲5.0 万人と前月の増加から５ヵ月ぶりの減少に転じており、雇用拡大の動きに一服感が出ている。年代別では、60 代以上の高齢層で増加する動きがみられる一方、10 代や 20 代といった若年層での減少が雇用全体の重しとなっている。雇用形態別では、常用雇用に底堅い動きがみられるものの、臨時・日雇い雇用を中心に調整の動きが確認されている。労働力人口も前月比▲0.8 万人減と前月に続いて減少しており、年代別では、60 代以上の高齢層で増加する一方、10 代や 20 代など若年層を中心に減少するなど、労働市場から退出する動きが広がっている。こうした動きを反映して、労働参加率（季調済）は 64.4％と前月（64.6％）から 0.2pt 低下しており、表面的には失業率が改善しているものの、雇用を取り巻く環境は厳しさを増していると捉えられる。

図 3　KR　雇用環境の推移

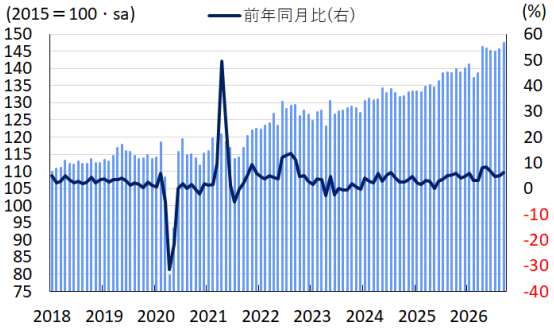


（出所）CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[マレーシア]～世界的な AI･半導体関連需要の旺盛さを追い風に、製造業を中心に生産拡大が続く～

10 日に発表された９月の鉱工業生産は前年同月比＋6.3％となり、前月（同＋5.0％）から伸びが加速した。前月比も＋1.19％と前月（同＋0.54％）から２ヵ月連続で拡大しており、足元の生産活動は持ち直しの動きをみせている。分野別では、原油や天然ガスなど鉱業部門の生産に下押し圧力がかかる一方、製造業の生産は前月比で２ヵ月ぶりの拡大に転じるなど持ち直しの動きを強めている。また、経済活動の動向に連動する発電量も前年同月比で拡大しており、製造業を中心に生産活動が活発化している様子がうかがえる。製造業のなかでは、世界的なＡＩ（人工知能）・半導体関連需要の旺盛さを反映して、半導体など電子部品関連や電気機械関連の生産が軒並み拡大している。さらに、自動車など輸送用機械関連の生産も前年同月比で拡大に転じるとともに、金属関連や化学製品関連など素材・部材関連の生産にも底堅い動きがみられる。

図 4　MY　鉱工業生産の推移



（出所）CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以　上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一ライフ資産運用経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。